

## Y12c 岡山クーデ分光乾板デジタルアーカイブの予備調査. II

柳澤顕史 (国立天文台), 古荘玲子 (都留文科大学), 根本しおみ, 土屋智恵, 春日敏測, 渡部潤一 (国立天文台)

我々、国立天文台・写真乾板ワーキンググループは、岡山天体物理観測所・クーデ分光乾板デジタルアーカイブを構築する目的で予備調査を続けている。春季年会では、クーデ分光乾板から復元したスペクトルを CCD で得た同一天体のスペクトルと比較したところ、両者が 2-4% の高い精度で一致することを確認し、分光写真乾板が再現不可能な研究資源として保全・活用する価値が十分にある、と報告した。本講演では岡山クーデ分光乾板ライブラリの特徴を評価する目的で、観測メタ情報を主要な観点から整理した結果を報告する。

我々は観測メタ情報をデータベースに整理した。本データベースに登録されているのは、野帳に記述された観測情報、三鷹・貴重書庫に保管されている乾板の在庫調査結果、観測天体の SIMBAD への照会結果、観測波長範囲の推定結果、などである。主要な特徴は次のとおりである。岡山クーデ分光器は 1962 年-1989 年の 28 年間にわたって使用され、合計 11,131 枚の乾板が取得された。その 89.9% に相当する 9,942 枚が三鷹貴重書庫に保管されている。観測された天体は主として  $V < 7^m$  の恒星、1,250 天体余りで、天体タイプは SIMBAD 分類で 55 種と多岐にわたる。多い天体タイプは高速度星、(食・分光) 連星、Be 星、炭素星、 $\alpha^2 CVn$  星、などであった。さらに、次に示すように岡山クーデ分光乾板は殆ど同じ条件で取得されていることも明らかになった。ロングスリット分光モード使用率が 99%、観測所が用意・提供した 3 種類の回折格子の利用率が 96%、乾板乳剤は殆どコダック分光乾板で上位 6 種類の使用率が 92%、現像液は Pandol, D19 が殆どを占めており利用割合は 92%。岡山クーデ分光乾板ライブラリは、1 万枚の均質な学術資料である。